

**つむりの練習手帳**

たまにしかひらめいてくれないつむりですが、ひらめくといろいろな事がうまくいくようになります。毎晩やっている「音読」(←先生には“朗読”って言いなさい、って言われたらしいけど、どう聞いてもレベルが「おんどく」)や、ごはんを食べるスピードもそうだし、一番よくわかるのがピアノの練習です。ひらめいていると上手なんだけれどなあ。(トホホお兄)

**つむり現在の楽譜**

- ☆ハノン・ピアノ教本
- ☆ル・クーベ
- ピアノのアルファベット
- ☆フォーレ ドリー組曲 Op.56

有名なピアノ曲に手軽にチャレンジできる  
参考演奏CD付きピアノ名曲集!

**弾きたい!聴きたい!ピアノ名曲シリーズ**

編:編集部 演奏アドバイス:黒田篤志

あらゆるシーンで大活躍!!

Classic Piano Master  
弾きたい!聴きたい!  
定番のピアノ名曲

Classic Piano Master  
弾きたい!聴きたい!  
懐かしい想い出のピアノ名曲

Classic Piano Master  
弾きたい!聴きたい!  
心地よいピアノ名曲

Classic Piano Master  
弾きたい!聴きたい!  
華麗なピアノ名曲

Now printing Now printing

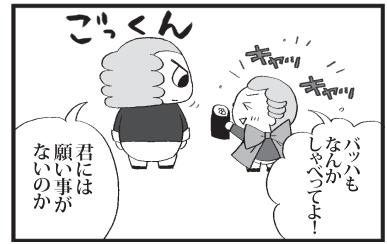
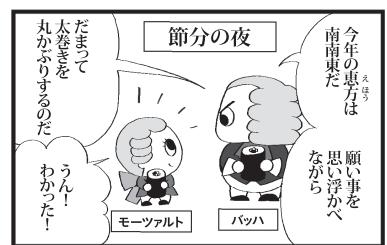
発売中 第3弾 2月中旬発売

■各:菊倍判/48頁/CD付き/本体価格1,000円(税別)

## シェアハウス No.3 どれみふあ荘

**恵方巻**

漫画:東園子



## 「勇気づけのピアノレッスン」No.24

<連載2周年、ありがとうございます>

「勇気づけのピアノレッスン」の連載が始まり、今月号で早くも丸2年となりました。

「アドラーって誰?」「アドラー心理学なんて聞いたこともない。」と言われた時代もありましたが、2年ほど前からのブームのお陰で、ようやく知名度も少しずつ上がり、20年以上も前から学んできている私は、おこがましくも「やっと時代が追いついてきた」と感じています。

このアドラー心理学が、ピアノ指導にも役立つことを多くの先生や保護者の方々に知っていただきたくて書き始めた「勇気づけのピアノレッスン」。連載が始まった頃は、ぼちぼちだった反応が、今では「コラムを読んで、いつも勇気をもらっています。」「このコラムを読みたくて、毎月、楽譜屋さんに『おんがく通信』を取り置きしてもらっているんですよ。」等、感想のお便りやメッセージをいただき、心から感謝の気持ちでいっぱいです。有り難いことに、昨年3月に学研より出版された『あなたの想いが届く 愛のピアノレッスン』の中では、手記「ある教室のささやかなサクセスストーリー」を執筆させていただき、私のアドラー心理学の実践を、既に多くの方に読んでいただいております。

ただ、それは言うものの、まだまだ音楽の世界で心理学はあまり馴染みがなく、心理学と聞いただけで自分には関係ないと思われてしまう人も残念ながらいらっしゃるとか。アドラー心理学は確かに心理学ではありますが、大学の一般教養で学ぶフロイトやユングの心理学とは全く異なります。なので、ぜひこの機会に学んでいただけたらと思うのです。

次回からは、「勇気づけのピアノレッスン」をリニューアルして執筆させていただくことが決まり、とても嬉しく思っています。アドラー心理学が、多くの音楽を愛する人の心に届き、勇気や元気の源となりますように、これからも書き続けていきたいと思います。3月号からも、どうぞよろしくお願ひいたします。

松井美香

「勇気づけの音楽家」東京音楽大学ピアノ専攻卒業。学研「愛のピアノレッスン」にて手記を執筆。  
(HP) 松井美香ピアノ教室 <http://matsuimika-piano.net>  
(ブログ) ピアノの先生のためのモチベーションアップ術 <http://ameblo.jp/makeachangewithlove>  
\*無料メールが好評配信中(ご登録はブログでお知らせしています)

Tsubuyaitter

お芝居のチケット半券を整理していたら、  
昨年は15回も観劇していたことが判明。  
幸せな思い出の数々がよみがえるとともに、  
トータルのチケット代を計算して若干青ざめるのでした…(ゆ)

follow me!

リアルつぶやきのつぶやく@gakken\_music 日々のよしなじごとや最新情報をツイートしています!

**学研** おんがく通信

Web版もある♪  
♪バックナンバーが閲覧できる!  
♪ウェブならではの情報が満載!

**2月号** 2016年1月25日

学研 おんがく.net  
<http://www.gakken.jp/ongaku/>  
電子書籍ストア 学研BookBeyond  
<http://bookbeyond.jp/>  
twitter @gakken\_music  
Facebook gakken.music

そろそろ卒業式の練習が始まるとでしょうか。(お)はKiroroの〈未来へ〉を歌いました。少ない人数でもギリギリまで集まって練習していたことを思い出すと少し切なくなります。ピアノが上手な友達が編曲してくれたので特別な1曲になりました。(お)

## 究極の名盤を聴く⑦ グリーグ ピアノ協奏曲 イ短調 Op.16

23人の音楽評論家が選んだ究極の名盤ガイド『クラシックCDエッセンシャル・ガイド150』をもとに、歴史に残るピアノ曲の名盤をご紹介するコーナーです。

今回は、グリーグの〈ピアノ協奏曲イ短調Op.16〉をご紹介いたします。この曲は、妻ニーナとの結婚の翌年、新婚生活の中で書かれました。北欧的な叙情と、ピアノの美しい演奏技巧が盛り込まれています。グリーグの代表作でもあります。

数あるピアノ協奏曲の中でも、非常に人気の高い曲です。

### 名盤BEST 5

#### 1. ディヌ・リパッティ

ガリエラ指揮  
フィルハーモニー管弦楽団  
[Opus 蔵/O/PK 2072/MONO/1947年] (輸)

#### 2. クリストフィアン・ツィマーマン

カラヤン指揮  
ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団  
[ドイツ・グラモフォン/4779964/1981,82年] (輸)

#### 3. スヴァトラフ・リヒテル

マタチッチ指揮  
モンテ・カルロ国立歌劇場管弦楽団  
[Warner/WPCS 23037/1974年]

#### 4. レイフ・オヴェ・アンスネス

キタエンコ指揮  
ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団  
[VC/TOCE8629/1990年] (廃)

#### 5. ワルター・ギーゼキング

カラヤン指揮  
フィルハーモニー管弦楽団  
[EMI/TOCE3304, TOCE11522/MONO/1951年] (廃)

(輸)=輸入盤 (廃)=廃盤

#### ディヌ・リパッティ Dinu Lipatti [1917-1950 (ルーマニア)]

リパッティは、演奏家として輝かしいヴィルトゥオーソであったばかりでなく、感受性と繊細さをそなえており、音色に対する鋭敏な感覚にもたいへん恵まれていました。したがって、彼の古典派の作品も無味乾燥な演奏に陥ることはなく、ロマン派の作品においてはさらに貴族的な洗練された音楽をつくりあげ、情熱に押し流されることはありませんでした。それはグリーグの協奏曲でも発揮されています。



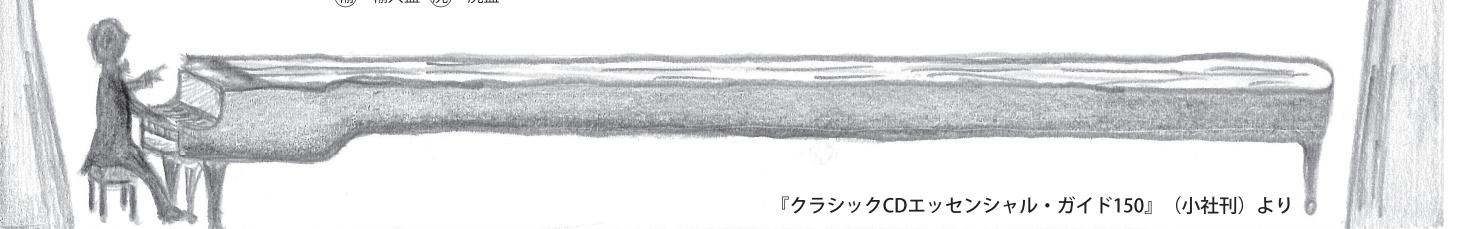
#### クリスティアン・ツィマーマン Krystian Zimerman [1956- (ポーランド)]

ツィマーマンの雄弁さが輝く演奏です。強弱のニュアンスが豊富で、見事なテクニックによってすべての音を鳴り響かせています。こんなに曖昧な部分のない、メリハリのあるグリーグは滅多にありません。高音のきらめきから繊細なピアニッシモの囁きまで幅広く表現しています。カラヤンの指揮もドイツ後期ロマン派を彷彿させます。



#### スヴァトラフ・リヒテル Sviatoslav Richter [1915-1997 (ウクライナ)]

リヒテルならではの、スケールの大きい音楽世界を繰り広げています。聴き手を圧倒するすさまじい気迫の一方で、グリーグ特有のメランコリックな美しさに彩られた各主題を、やや遅めに設定されたテンポで、優美にしつとりと歌い上げています。マタチッチの指揮もしたたかなかオーケストラ演奏でリヒテルに対抗しているように聴こえます。



『クラシックCDエッセンシャル・ガイド150』(小社刊)より

## ピアノの森から

\*田丸信明先生のすてきなオリジナル曲をご紹介します\*

### 第21回

11月号から『新訂ピアノの森』第1巻~第3巻の巻末に新たに収録された“連弾の曲”を1曲づつご紹介しています。今回は〈ポルカ・ポルカ〉(第2巻収録)。以前、「NHKみんなのうた」で歌われた〈はさみとき〉という曲でもあるのですが、どこかで聴いたことがあるようなメロディーに簡素なおしゃれなコードが寄り添う生徒さんパートと、ビートの効いた先生パートによる、田丸先生のアレンジならではの楽しい連弾曲に仕上がりました。(か)

## 今月のあかね先生

### 『ピアノのほん』シリーズ 収録曲紹介

1月号に引き続き『ピアノのほん』シリーズから、あかね先生チョイスの、発表会におススメ曲をご紹介いたします！(ゆ)



#### ♪ ぼくらのひみつきち【ソロ】(『ピアノのほん③』P.17より)

##### あかね先生のコメント

「付点の感覚を身につけるのにピッタリの曲です。付点のうしろの音符がすべらないように気をつけて弾いてくださいね。」

子どもの頃に一度は作りましたよね、「ひみつきち」。自分たちだけのとっておきの場所…そこへ行くときのワクワクした気持ちを表現するように、はずむ「たっか」のリズムがたくさん登場する、かわいらしい曲です。タイトルは〈ぼくらのひみつきち〉ですが、あかね先生のお教室では、特に女の子に人気がある曲なんだとか♪

#### ♪ お城のパーティー【ソロ】(『ピアノのほん レパートリー③』P.10より)

##### あかね先生のコメント

「3拍子なので少し難しく感じるかもしれません、特に中間部は軽くステップをとるような感じで弾くのがコツです。」

短い三部形式のフルツで、ところどころに出てくる3連符がスパイクとなって可憐な雰囲気に。ドレスでおめかしして演奏すれば、ステージは一氣にお城のパーティー！お客様と一緒にアン・ドゥ・トロワ♪と踊り出したくなるような、優雅な雰囲気の曲です。

#### \*今月のセミナースケジュール\*

2/2(火)：[大阪府／大阪] ヤマハミュージッククリテイリング 大阪なんば店  
『譜読み』の基本を身につけるレッスン

2/10(水)：[宮城県／仙台] サンリツ楽器 ピアノパーク店  
『楽しくおぼえる「おんぷ」と「けんばん」のレッスン』

2/19(金)：[新潟県／新潟] ヤマハミュージッククリテイリング 新潟店  
『ピアノ・テクニックのレッスン法～初步からすてきな音をならしましよう～  
<テクニック・セミナー／導入編>

## 発掘！ オリジナル攻略法

No.2

～スラーの演奏法をマスターしよう～  
『カンツォネット』ネーフエ作曲  
『新選ピアノ名曲120 初級 (P.16)』収録



1曲目はC.G.ネーフエ(1748-98)作曲の〈カンツォネット〉です。両手が単旋律で、しかも各小節の第1拍目で合わせるように作曲されています。弾きやすいため導入に最適です。攻略法の基本は次のとおりです。

1. タイトル、速度標語、作曲家、形式から曲の様式を把握する。
2. 音型やリズムから理論的に表現を考える。
3. ほしい音を出すための指や手首の使い方を決めて、練習の指針にする。

この方針を参考しながら、ほかの攻略法をたくさん考えてみてください。

## 感じをつかもう（様式）

カンツォネットとは、16世紀後期から17世紀に流行した小歌曲です。Allegrettoという速度標語や冒頭のmpから考えると、極端な表現は控えた方がよさそうです。

ネーフエはベートーヴェンの先生としても有名です。古典派中期～後期の作曲家・教育者が、前の時代に流行した音楽スタイルで作曲しています。初步の教育を念頭においていたのかもしれません。

曲は第1～8、9～16、17～24小節の3つに分かれます。それぞれ第①、②、③部とします。第①、③部は同じ音です。このようなハンバーガーのような構成を三部形式と呼びます。安定感のある形式で、多くの曲がこの形式を用いています。

以上のことから推理すると、この曲は、素朴に均整のとれた様式にまとめた方がよさそうです。

黒田篤志 くろだ・あつし

1973年生まれ。早稲田大学修士課程修了。日本アマチュアピアノコンクール7位入賞。出版社にて楽譜と書籍の編集を担当。現在小山市で、大人のピアノ教室「Lento レント」主宰するかたわら、フリーの編集者、ピアニストとして活動中。<http://ameblo.jp/pianote0519/>

## こまかくみてみよう（理論）

## スラーをマスターしよう（カラダ）

第1～2小節のメロディーを動機（モティーフ）といいます。この曲の顔のようなものですね。第5～8小節はいっしきにオクターヴ上がってから順次下がるというまとめかたです。

第②部に入り、8分音符が連続します。しかも第9、11、13小節は2つ单位でスラーがつけられています。動機の前半は4つ单位でスラーがつけられていましたね。つまり、より尺を短くすることでテンションを高めているわけです。第15小節で16分音符を使い第16小節で第②部を締めくくりますから、ここがクライマックス。第13小節からcresc.で盛り上げfで決めてください。

第③部は第①部とほぼ同じ。しかし第21～24小節がfになっています。第5～8小節との違いを明確にするために、「ハイ、終わり！」というような感じをfで表現するべきでしょう。

この曲で大切にしたいテクニックは、スラーナのついた4分音符の弾き方です。第2、4、8、16、18、20、24小節にあります。



前の4分音符は、手首を下げ気味にして腕の重みをかけ、後の4分音符は手首を上げつつ腕の重み抜くように演奏します。さらにレガートできついにつながるようにしてください。前の4分音符を後の4分音符に少し重ねてもよいでしょう。第9、11、13小節のスラーでは同じ弾き方を小刻みに使ってください。

この音型はさまざまな曲に出てきます。〈カンツォネット〉でマスターし、自分のテクニック・アイテムにしてしまいましょう！

次回はクリーガー作曲の  
(メヌエット)をご紹介します。



## オザワ部長の ヤマハ吹奏楽団 CD発売記念インタビュー

インタビュー オザワ部長×お話 須川展也さん(サックス奏者・指揮者) Part.2

(おんがく通信1月号の続き)

—須川さんがヤマハ吹奏楽団を指揮するときに心がけていらっしゃることは何でしょうか？

「まずは、演奏する音楽のスタイルですね。それから、それぞれの役割。メロディーは立てあげたいし、支える人のバランスはどの程度が良いかも考えてあげたい。要するに、『どういう音楽を、どのように伝えたいか』ということですね。僕はサックスでソロを吹くときに『こんな音楽を作りたい』という思いがありますけど、楽団を指揮するときも同じです。その思いをみんなと共有するということですね」

—須川さんの思いは、どの程度伝わっているでしょうか？

「ヤマハ吹奏楽団では、僕が吹き振り（演奏と指揮を兼ねること）をすることが多いです。つまり、僕が演奏している間は、指揮者なしでやってもらうわけです。今回のCDの中でも『日本民謡による狂詩曲』は吹き振りをしています。それでもちゃんとみんなは演奏してくれているので、僕がどんな音楽を作りたいかはしっかり伝わっていると思います」

—さすがですね。ところで、須川さんは中学・高校の吹奏楽部と共演したり、レッスンをしたりする機会も多いですね。今のスクールバンドについてどう思われますか？

「中学生や高校生は夢を持って頑張っていますよね。それは素晴らしいことですけど、ぜひそのキラキラした夢を大人になってからの音楽生活へつなげていってほしいと思うんですね。中学時代や高校時代は指導者を信じてついていくことが大事です。でも、もうちょっと大人になってくると、指導者についていきながら、一人ひとりが指揮者と《音楽の会話》をするというステージに変わってきます。その会話を通じて、ときには自己主張したり、ときにはまわりと協調したり、敢えて自分から裏方に回ったり…ということをするわけですね。そういうところまで中学・高校で吹奏楽部にいる皆さんを導きたい、という思いを持っています」

—中学や高校で一生懸命部活をやったのに、卒業後にやめてしまうというケースは少なくありません。もちろん、いろいろな人生の可能性や選択肢にチャレンジしてみることも良いことですけど、少し寂しいですね。

「そうですね。中学・高校で燃焼し切らないで、少しだけ余力を残しておいてもらえたら。もっと深い音楽の世界があるのに、その入口に立ったところでやめてしまう子が多いのは寂しい。大人になると他にいろいろやりたいことも出てくると思いますけど、せっかく吹奏楽で頑張ってきたなら、『音楽で会話をする』という喜びが感じられるところまで続けてほしいと思いますね。それが僕の願いです」

—学生だけでなく、もっと大人世代の皆さんにも吹奏楽を楽しんでいただきたいですよね。

「幅広い世代で演奏者が増えてこそ、吹奏楽が文化になると思うんです。今でも吹奏楽は世界に誇れる日本の文化だと思いますよ。北から南まで吹奏楽をやっていない土地がないという、そんな国は他にどこにもありません。アメリカも吹奏楽は盛んですが、地域によって偏りがあります。オザワ部長の『あるある吹ペディア』には『鳥取県』が全日本吹奏楽コンクールに一度も代表を出していない都道府県として載っていましたけど（笑）、サックスプレイヤーのMALTAさんは鳥取県出身だし、僕の弟子たちの中にも出身者はいます。世界中を探しても、こんなに全国で吹奏楽が盛んな国はないです」

—吹奏楽が日本の文化、伝統になるといいですよね。それと、吹奏楽は世代を超えたコミュニケーションにもつながるのではないか？

「はい、それをやっていきたいんです。吹奏楽は文化にもなるし、コミュニケーションにもなると僕に気づかせてくれたのが、ヤマハ吹奏楽団でした。メンバーは年齢が幅広く、会社内での上司や部下という関係もあります。けれど、一生懸命にみんなで一つの音楽を作り上げています。そんなヤマハ吹奏楽団の音を通じて、世代を超えたつながり、絆というものを感じていただきたいですね」

ヤマハ吹奏楽団のCD『ヤマハのオト～奏でる匠のオト～』(ヤマハミュージックコミュニケーションズ)の発売を記念し、オザワ部長は世界的なサックス奏者であり、ヤマハ吹奏楽団の5代目常任指揮者でもある須川展也さんにインタビュー。後編をお読みください！

(フェイスブックページ「私立ジーピー学園吹奏楽部」<http://www.facebook.com/gpbrass> 2015年10月号掲載記事より)

—今回のCDで特に聴いてほしい曲は？

「すべてなんですけど、強いて挙げるなら『天頂の恋』です。もともとは僕が長生淳君に委嘱した、ソプラノサックス・テナーサックス・ピアノの三重奏曲。世界中で愛されている曲なので、『じゃあ、吹奏楽にしてみよう』と。織姫と彦星の七夕伝説、涙が出るような恋物語を真っ向勝負で吹奏楽で表現したかったんです」

—ガーシュウィンの『アイ・ガット・リズム』変奏曲（中橋愛生編曲）は、2014年の全日本吹奏楽コンクールで金賞を受賞したときの自由曲ですね。

「ガーシュウィンのピアノコンチェルトの吹奏楽アレンジです。とってもカッコよくジャジーだけど、クラシカルでもあるので、吹奏楽の良さが生かせる曲ですね。コンクールで演奏したときには『コンクールっぽくない』とも言われましたが、それによって『じゃあ、コンクールっぽさって何だろう？』ということを真剣に考えるべきだと思いました。いわゆるコンクールっぽさというのは、一糸乱れぬ完璧な演奏かもしれない。それはすごいことだし、カッコいいけれど、もっと音楽は広いよ、いろんな可能性があるんだよ、ということを伝えたいたいです。だから、コンクールだと12分間に注ぎ込む集中力を、僕とヤマハ吹奏楽団はこのCD1枚に傾けてみました」

—では、頑張って吹奏楽に取り組んでいる現役の中学生・高校生にメッセージをお願いします。

「ヤマハ吹奏楽団のメンバーはみんな大人ですが、音楽が大好きで頑張っています。中学生・高校生の皆さんには、せっかく吹奏楽の魅力に目覚めたなら、少しでも長く続けてほしいです。大人になって、忙しくなかなか樂器を練習する時間がなかったとしても、ちょっとした時間に樂器に触れてみたら、自分の心が癒やされるのではないかと思います。それと、ぜひ現役の子たちにおすすめしたいのは、自分の樂器で自分の好きなメロディーを吹けるように練習すること。吹奏樂部で演奏する曲のパート譜を一生懸命練習することも必要ですけど、そればかりに縛られてしまうと音楽の全体が見えなくなってしまいます。たとえ普段はメロディーがないような中低音の樂器でも、ぜひ好きなメロディーを吹いてみてください。クラシックでも、ポップスでも、演歌でも何でもかまいません。メロディーがわかると、リズムやハーモニー…つまり、音楽の三要素すべてがわかってきます。メロディーを演奏することで、どう伴奏すればいいか、どう低音で支えればいいかといったことが理解できるんですね」

—それはすごくわかります！ 全員で好きなようにメロディーを練習する時間を部活に取り入れていただきたいですね。

「毎日10分でいいですから。打楽器だったり、面白いリズムに挑戦してもいい。僕は東京藝術大学で長く教えていますけど、藝大に来るような優秀な子は好奇心旺盛で、自分の好きなメロディーをどんどん吹いてみるタイプが多いです」

—「好奇心」もポイントでしょうか？

「はい。好奇心がなかったら、うまくなりません。いろんな曲をたくさん聴いて、どんどん真似をしてみてください。『どうしてこんな素敵な音が出せるんだろう？』と思った段階で、すでにその人はうまくなっているんですよ。『ヤマハのオト～奏でる匠のオト～』も、ぜひ好奇心を持ちながら聴いてみてほしいです」

## CD情報 好評発売中！

『ヤマハのオト～奏でる匠のオト～』

ヤマハ吹奏楽団 指揮：須川展也

ヤマハミュージックコミュニケーションズ/YCCS-10056

CDの詳細は[こちら](http://www.yamahamusico.jp/symphonicband/)→



オザワ部長 吹奏楽作家。著書に『みんなの吹奏楽』(新紀元社)、『翔べ！私たちのコンクール』(学研ブックス)、『あるある吹ペディア』(同)、『吹部ノート』(KKベストセラーズ)など。ネット、ラジオ、雑誌など各種メディアでも吹奏楽の楽しさを発信中。

●総合吹奏楽情報サイト「ある吹net」 <http://arusui.net/>

●フェイスブックページ <https://www.facebook.com/minsuararu/>